

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

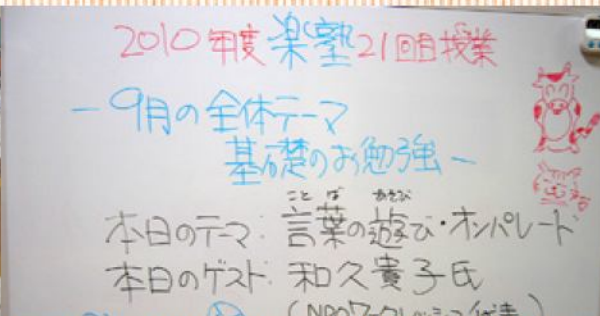
なほ

5月号
vol. 087

特集：都市のインフラ

楽塾

という暇つぶし 2



特集：都市のインフラ

楽塾

という暇つぶし 2

佐々木 敏明

楽塾 主宰 (株) ナイス非営利部門
「くらし応援室」所属

楽塾のプログラム

4月号では、「楽塾」の背景や方向性をお話ししました。今号ではより具体的に、「楽塾」の内容や展開などについてレポートしたいと思います。これらは「楽塾」の成果ではなく、あくまで進行形の経過として読んでいただければ嬉しいです。



授業プログラムは大きく分けて①座学②ワークショップ(以下、WS)③ものづくり④活動に分類される。ただし分類は結果であって、授業はゲストやこちらの都合で勝手に変更され実行されている。座学では、沖縄、在日韓国人、被差別部落の「現在」をテーマにしたリ、当事者が語る「生活保護のおもしろい暮らし」、「地域で働く人たちの日常」。塾生たちがゲストとして語る「さまざまな人生」、「恋の話」。座学とは異なるが、映画の

上映、音楽のDJやライブプログラムなどがその一例だ。WSは、「楽塾では比較的中心となるプログラムで、オカマ・ハーフ・ホモをゲストに「男と女の間には」という性同一性の問題や、国語や算数を応用して日常使う言葉や、数字や図形をためて見直したり、数字や図形を使用して物をつくって遊んでみたり、年代別の和洋盤アナログレコードを利用し、まずは自分の好きなレコードを選び、とくに自分がよく聞いた曲にまつわるその時



代の記憶をたどって、レコードを仲介にストーリーを組み立て「音楽で履歴書づくり」をした。セラピストによる各自のメンタルの告白や、中古衣料店内で衣料品を利用し「明日はデート」と称し、選んだ理由を説明しながらその服を着て「フアツシヨン・シヨ」を何度かした。またカナダやスイスで生活する友人たちとスカイプを利用し、歴史文化や社会を映像で伝えてもらい相互に交流したり、自分の「シンボルマークやロゴタイプ」の制作を試してみた。

「合同慰霊祭」を実施したときは、これまで故郷に帰れなかった人たちが「これで気がすんだ」と語ってくれ、「生前葬」では「棺おけの中は意外に気持ちがいい」と話題になり、地域の人も参加してくれて喜ばれたこともある。「死んでからのお楽しみ」というような宗派にかかわらず宗教WSを何度か行なったが、宗教の何たるかは今も謎のままである。

また「父」「母」をテーマに親を考へ、親の遺産を食い潰した、今も母親の夢を見る、許せなかった父親を今は許せる、などなど笑いと涙が交錯し、それぞれの語りが心に残り印象的だった授業もあった。

それぞれの棲家

「くらし応援室」は、就労、住居、医療などいわば「一見さん」の相談場所だ。しかし「楽塾」は、「お馴染みさん」の場所である。「くらし応援室」の一見客を「楽塾」に誘導するのだが、今はお馴染みさんが固定してしまい、一種の疑似家族化してしまっている部分がある。新しい人たちが来ても馴染む前に来なくなってしまう。登録者はたくさんいるのだが、スタッフを含め常に10人前後の参加者で授業は始まる。年代も20歳代から70歳後半までさまざま、高齢者たちにとつての「楽塾」は終の棲家である。精神をいためる者や、青年たちにとっては仕事を探し、自然にピアカウンセリングみた

象的だった授業もあった。

普通タプーとされるアルコルやギャンブルをテーマにした「試飲会」では、「日ごろ飲むビール以外は飲まれへん」「コーヒは絶対これや」などと通ぶりを自認する塾生たちに、メーカー名を隠した紙コップに缶ビールや缶コーヒを入れて試飲してもらう。メーカー名を誰一人当てることができず大笑いしたし、競輪競艇、競馬を楽しみにする塾生たちと、過去に行われた競馬中継を再生し、それを見ながら「楽塾馬券」を発行して勝ち馬予想をした。全員思わしい結果を得られなかったが、それを材料に、数字を使って確率の計算をし、「勝てないんやね」と勝率の無情を味わってもらった。とはいえそのときばかりの無情だが。

ものづくりはWSと重なる部分もあるが、絵を描いたり仮面をつくったり、鯉のぼりをつくり、他市公園とタイアップをして子どもの節句に泳がせた。これらはその後、地域の子どもたちのイベントに活用され発展しているプログラムでもある。また時間をかけて陶器や皮革製品などを作成し、木工や石膏を使った工芸製作にも挑戦している。

いなやりとりをする、復活の棲家にしているのだろうか。また、仕事を持つ者たちにとってはまさに暇つぶしの棲家として機能し、「生保よさらば」と再就職に向かって卒業していった塾生も数人いて、時折は塾生となって戻ってくる。中には金銭管理が必要なものもあるが、週に何度かは必ず顔を見られるという担保になっているので、今のところ、安否確認のできる棲家として機能していると了解している。

あちこちに棲家を

一人の人間がたくさんの困った人の人生など担うことなど出来ない。しかし、少数の困難な人の一部を応援することは可能だ。多数の支援ではなく、たくさん地域で「楽塾」のような顔の見える少数応援できる「棲家づくり」が本願だと思う。その新しい例を、現在豊中市で実践するようになった。

活動編とは主に戸外での授業である。6年間を通し、奈良へ「田植え」や「草刈」など畑仕事に出かけている。「収穫祭」で刈入れた米や芋などは給食用だ。また「生物観察」「ピクニック」や正月の「寺社参拝」に加え、毎年「修了記念旅行」として1泊2日の旅を実施し、本年も6回目を発行したばかりだ。とくに旅行の発端は、ほとんど旅行などしたことが無いという塾生の話がきっかけだった。お金を積み立てることから始め、授業の中で目的地を決め、鉄道やバスなど最もエコノミーな交通手段を考えるため、塾生同士で計算しあい、バスの借りを最善と判断した。その後の修了記念旅行はバ

か、すべてが大きく揺れ、東北地方で大震災が起きたことを知った。私事ながら、阪神大地震で自身の生活に大きな楔を打たれた経験と、震災時豊中に住んでいたことを思いおこし、その後そのことに不思議な奇縁を感じている。なぜなら、地震によって自分の生活を崩し、地震後、その経験から社会的困難層を応援する立場となり、今度もまた類例のない地震の日に、新しい地の新規事業に直面したからである。しかも、当時自分が起居していた豊中で、新たな生活者たちとのかかわりを持つということになったのだから。



豊中庄内公民館まつりの様子

その豊中市とは単年度更新で契約し、この4月から4年目が始まった。昨年度からは豊中市内のNPO法人「ZUTTO」と協働で、事業名称も「楽塾とよなか」から「居場所くらし応援室」となった。NPOの女性スタッフ2名と一緒に運営する。

ツアーが常道となっている。年末には、塾生たちが「カレンダー販売」をし、その売上金が旅行の原資にもなる。

まちと関わる

そのほか年間を通し、地域での子どもイベントへの参加の要望が、他市や他区の各所から要請されてくる。とくに子どもたちに楽しめるものを、過去の授業の中から選び、塾生たちと縁日よろしく店を開きお祭りを盛り上げる。もちろんこれらは課外授業ではあるが、たくさん子どもたちが楽しんでくれる。しかし、一番楽しんでるのはお祭りが塾生諸君だった。子どもたちへの対応は本当にうまいのだ。

暇つぶし、寄り合いを楽しむ塾生たちが、塾という閉じられた場だけではなく、いろいろなまちで行われるさまざまな事象にかかわることができれば、自らの値打ちや存在を發揮できるし、自らを認めることもできる。またまちとの密（みつ）なかわりなどは道半ばだが、豊中では「スマートボール」を3台作製し、数

み、母子家庭の母親、若年者、中高年齢者、障害者ら、生活保護者層にこそ雇用就労の場が必要だとして、労働課に地域就労支援のコーディネートーターを置く。CWは、生活保護者が必要としているニーズを確認し、コーディネートと相談しあって、就労雇用に結び付けていく準備をする。そこでは精神、肉体的に就労困難な人や、準備期間のいる人たちも多い。コーディネートは、主としてそんな人たちを、わが「居場所くらし応援室」を彼らの棲家として紹介してやるのである。

【平川隆啓】また、行きたいところが増えました。佐那河内の古民家と棚田に囲まれて、のんびりしてみたいです。今度のなび制作は佐那河内合宿で、とはならないかなー。



リレーなびトーク

No.13

2か月ぶりのリレーなびトーク。紙面も増えて、ちょっと衣替え！いろんな人と場と取り組みをつなげることをテーマに隔月でお届けします。

今回は、上田假奈代さんと、臣永洋子さんの、暮らしも文化も異なる都会と田舎をつなぐ取り組みについて、聖天さんのふもとにあるcafeマロニエでまったりとお話しました。

プロフィール



上田假奈代

NPO法人「こえとことばとこころの部屋」(COCOROOM)で、西成・釜ヶ崎からアートを実践。動物園前商店街でカフェを切り盛りしながら、幅広く活躍中。



臣永洋子

徳島の佐那河内内で古民家を借り、子どもと大人の交流をキーワードに、農や自然に関する活動を実践。夫の仕事の関係で西成に来てからは、地域の子どもたちが集まる居場所づくりやイベントにも参加。都市と田舎を結び取り組みを試行錯誤中。

臣永…徳島の佐那河内(さなごうち)に古民家を借りていてね。そこに草も生え放題の荒れた棚田があつて、少しずつ田んぼに戻そうとしているのです。築100年の素敵な古民家と棚田なのですが、借りた途端に、西成に引越すことになったのです。

上田…借りた途端にですか。古民家をお手入れしによく帰られているのですね。

臣永…行ったり来たり。佐那河内も大好きな村です。嘘かどうか分からないのですが、「古事記の郷」と言われています。佐那河内の神山とかでは「邪馬台国」だったという説があつたりして、すごくミステリアスなんです。四国八十八か所もありますでしよう？ あれは、結界だったという説があるそうです。

上田…佐那河内の古民家で合宿シンポジウムできたら面白そうですね。

臣永…我が家には20名ほどは泊まれますしね。田んぼをつくったり、大川原高原も広いので遊べますし、温泉もありますので、お

越してください。

上田…ぜひ、「邪馬台国ミステリー」を体験したいです。

臣永…実は、都会の子どもたちと、田植えなどを通じて棚田の再生に取り組みたいなと思つています。佐那河内は徳島県で唯一の村で、ここも高齢化して過疎なんですね。だから、都会と村を結んだらどうなるのだろうということ、いま模索しています。どう思います？

上田…私たちも、これまで何度も挫折しているのですが、農をキーワードにいろんなことにチャレンジしてきました。

田舎で農業をしている人が話してくれました。町内の寄り合いのあとの帰り、田んぼに寄り合いで出された缶が捨てられていました。これまでそんなことはなかった、彼はとてもショックを受けていました。村では田んぼは大切なものだったのに。村人の生業は農業だけでなく、彼は孤立しているようでした。

私たちは都会の消費者として暮らしているけど、村での農や暮ら

しともつながっているはず。そう思い、当時関わっていたニートや障がいを持った人、ホームレスの方たちと一緒にその村へ行って手伝いをさせてもらいました。「COCO田んぼ」と立て札をたててくれました。でも、彼の孤立というのとは深く、プロジェクトとしてはカタチにならず2年で終わってしまいました。でも農を通じていろんなチカラをもらえました。

それ以降も声がかかって、宇治の不耕起田んぼにも誘われ、みんなで行ってきました。主催者はいろんな団体に呼び掛け、田んぼに舞台をつくった収穫祭は大人も子どもも100人ほど集まって、楽しく力強い一日でした。

臣永…農に触れることって、ほんと回復する感じなんですよね。私は子どもたちに、土の感触や草の匂いを知ってほしいと思つているんです。いま都会の子どもたちができる環境になつてしまつて

いるということは、どうなのだろうかと思つてしまいます。

上田…毎日野菜やお米をいた

だかないと生きていけないのに、それらがあつて当たり前になつていきます。ただ食べるだけじゃなくて、どこで育てられ、どうやってつくられているのか、実際に触れることで感じてたいし、考えていきたいなと思えます。

臣永…できることからコツコツやっています。

上田…たぶんこういう活動だろつて思っています。すごく先のことも、いま始めないと300年後は来ないですよ。

.....

臣永…西成に来ることが決まつたとき、周りからあそこは「怖いよ」つて言われていたの、はじめは身構えていました。でも、実際は平気でした。確かに感覚も文化も、人も暮らしも違うけど、それは本当の「異文化交流」でしたね。

上田…その交流、いまでも楽しまれていますか？

臣永…もちろんです。こうやっ

ているんな方にお会いできているので、ずいぶんと視野が広がりました。広がりがすぎてまとまらないくらい！(笑)

上田…このまちが怖い怖いと言われてきた傷は深いですよ。『異文化交流で視野が広がったよ』つて、もっともつというんな人に言ってください!!

臣永…おじさんたちとも、少しずつお友達になつて、普通にお話もできるし、とても楽しいです。なんでここまで怖いイメージがあるのかな。自分にだつてニートやホームレスなど、しんどい状況になる瞬間つてあると思うんです。

上田…なつたことが悪いわけではなくて、それを引き受けてきちんと生きていくことが大切なんですよ。そうした人たちの姿に励まされます。なぜそこを見ずに、「怖い」と思うの不思議なんです。

特に「西成」「釜ヶ崎」とひとくりにされがちですが、束ねられず「自分で表す、表現する」という場をつくりたくて活動しています。まちのイメージではなくて、「一人ひとりの人間の存在」が表れたらいい。それがつながつて、誰もが生きやすくなると思えます。

臣永…そうですね。私も、一人ひとりを大切に、都会と田舎で「家族単位」の交流ができればなと思つています。まだ窓口までしか見えていませんが、できることを言葉にしなが、ら、ぼちぼち進めていきたいです。



ナイスな仲間たち

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.02 ナイスIT事業部



まだまだ身近にある!? Windows XP

XPのサポートが終了(2014年4月9日)して、早くも1カ月が経ちました。ある調査では大阪府内の企業はサポート終了後も5社に1社以上がXPを続けて使う意向があることもわかり、XPの姿を見なくなるのはまだ時間がかかるようです。

これからお財布と相談しながら、XPから新PCへの買い替えやWindows7や8への「アップグレード」を検討されている方も多いかと思えます。

でも、ちよつとお待ちを。もしかしたらご利用中のPCをお得にWindows7に変えることができるかもしれません。

詳しい話は割愛しますが、知らず知らずWindows7やVistaのライセンスを持ちながら、XPに「ダウングレード」しているPCが結構多いのです。お使いのPCの購入時期が

2008年の夏以降で、XPをお使いの方はWindows7やVistaの「ダウングレード」の可能性があります。一度、身近なXP対策として確認をしてみませんか? ただし、導入作業が必要です。また、PCの性能や諸条件で不可能な場合もあります。興味のある方はぜひ、お問い合わせ下さい。

(沖田一志)



ナイスIT事業部(株式会社ナイス)
〒557-0025 大阪市西成区長橋3-6-33
TEL 06-6563-1156 FAX 06-6563-1157
<http://www.nice.ne.jp/>

い湯かげん

「差別の温床」を残さない

打ち明けた話、ボクは、長女が母になり、次女が働くようになって、ボク達の世代は次の世代に、とんでもない「差別の温床」を残してしまっていることに気づいてハッとした。

「皆保険・皆年金」が良いが、給付に負担が追いつかない分、公費を飽食して、その累積債務は1,500兆円にもなると鈴木亘さんは指摘している。「完全雇用」という特定層にしか及ばない目標に踊らされてきたが、いまや「働きたいけど、働いていない人」は2,000万人にもなると炭谷茂さんは指摘している。原発は成長に不可避と思込まれて、とんでもない危機もしょい込んだ。原

発は核よりも身近な危機になり、逼迫する社会保障が不平等を拡散する危険性は高いし、働く価値を共有できないと互いを尊重できない社会になる。20世紀に営々と築いてきたはずの人權をいとも簡単に崩壊させてしまうような「差別の温床」が培養され、ボクの娘たちを脅かしているという意味である。

だからボクは、三つの決意を「なび」で繰り返し返してきた。一つは、就労支援を福祉の真ん中に据えること。先日、宮本太郎さんから「支援する側とされる側の相互交流」がこれからの福祉という話を聞いた。社会保障がとも持続できない危機にあることを、宮本さ

んは「騎馬戦」から「肩車」になると比喩されたが、ボクは、「フォークダンス」のような社会保障モデルで、「君も働いてみないか」と語りかけるのがこれからの福祉と思ひ描いて聞いていた。

二つ目は、地域に「互助」の種を蒔くこと。これまでの地域社会では、真ん中に「公」を置いて、困った時は公を悪者にしておけば八方収まったものだが、その分議論はいつも「線」だった。これからは「コスト」を真ん中においた地域の活動(社会運動)に自己革新することで議論を「面」にすると思つて、ボクは社会的企業に思い至り、互助の社会を思い描いた。

三つ目は、社会保障「改革」に参加すること。議員定数削減と一緒に、社会保障ではみな利害関係者だから、負担を増やし、給付を抑制することには総論賛成、各論反対になる。だから傑出したリーダーシップが必要と思つて民主党を応援したが「明智光秀」だったし、橋下改革にも「改革は」生意気ぐらいがちょうど良い」と期

待したが、「大塩平八郎」に終わりそうだ。政治家じゃないが、鈴木亘さんの「消費税より相続税」という主張が一番腹に落ちた(社会保障「国論」)。1,000万円の遺産にも20%(200万円)の相続税を課すというからドキッとしたが、「飽食のツケ」を払うのは理に叶っている。

「就労支援」と「互助」と「改革」で、1,500兆円もの社会保障債務を減らさないと、いや、「公」は「任す」ものではなく、「担う」ものと発想を転換しないと、本当に「差別の温床」が培養されてしまふ。



ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[四井恵介] 先日、久々に39度近い熱で倒れていました。その後、いつもメールやりとりしている、めったに風邪ひかない人たちから同じように高熱を出してダウンという連絡が…。これはメールやSNSで伝染するウィルスがもしもれません。



[飯田沙保里] いつの間にか5月になっていました…未だに気分は3月です。いつの間にか桜も終わってました…



[高橋静香] ハルカスの展望台。ご近所だからこそ(?)一生登ることはないと思ってたのですが、「すごくいい! 1500円の価値はある!」と行った方に聞いて、心揺れる今日のこのごろ。



あきらかにでつちあげにされた彼を見てどうにもできずただこのような国に生まれたことを恥じるだけだここでは正義はゲームでしかない(BOB DYLAN「ハリケーン」)

1966年6月、清水市で4人の他殺死体が発見され、袴田巖という現役ボクサーが逮捕された。自ら勤めていた会社の上司一家を惨殺し、その後放火したという。無実を主張し、約50年間の獄中生活は、世界最長の死刑囚といわれた。先日その判決は「冤罪」を伝え、死刑および拘留執行の停止のうえ袴田さんの再審を認めた。

この事件は、常々警察検察権力のひどいデッチ上げだと言われていた。袴田さんはプロボクサーであったが、奇しくも同じ66年の同じ6月、米国でも黒人ボクサーが

枝葉末節

1966年6月のハリケーン



hidarimaki こと佐々木です。4月21日。来日中のディラン・ライブを見たその日の夕刊で、本文に見るカーターの死去を報じていました。僕にとっては奇妙な符牒でした。

3名の白人を射殺した疑いで逮捕された。ボクサーの名前をルービン・カーターという。ファンたちは、彼のリングネームを、ハリケーンと呼び、人気のチャンプであった。終身刑の判決が彼に収監の身を強いたが、88年20年ぶりに冤罪と認められ解放された。

私がカーターを知ったのは、彼がまだ入獄中の76年で、ポップ・ディランが「欲望(写真)」というLPを発売した時だ。その中の1曲「ハリケーン」を聞き、カーター事件を知った。私が気に入ったのは、冤罪で入獄中のカーターを、ディランが訪ねたという話題や、8分以上もある曲の異常な長さ、ディランのカーターへの応援であり支持だ、などという世俗の問題ではなく、単にこの曲がLPの中でも飛びぬけてよかったからだ。

しかし私の国の不条理——古くは帝銀事件や名張の毒ぶどう酒事件、そして狭山事件など——を知るうち、事件の背後には司法警察の異常な恣意や、自分を含めた世間の予断や偏見の存在に、冤罪への関心を持ちはじめた。その後、来阪した石川一雄氏と話をしたり、狭山事件に関する書籍を読み、また「自白の心理学」などの著書がある浜田寿美男氏から話を聞いて、冤罪がいつなんどき、自分の身にも起こりかね



ないし、そんな恐怖が日常に転がっていることを知らされ、また、密室での取調べが被告側を追い込み、重大なる冤罪を醸成すると聞くにつけ、当事者たちの恐怖や怒りがいかなるものなのかを考えた。

私には封印していることがある。ふだんは記憶の奥底に沈む(お)りのようなものが、何かをきっかけにして突然水面に浮かび、再びその記憶を鮮烈に呼びさます。

そんな唾棄すべき体験など思い出したくもないのに、不意の死霊の訪問に心ざわめき、不快な気持ちを再現させて本当に忌むらしい気持ちになる。まさに袴田巖さんの記事によって、2人の「ハリケーン」を思っただけで、自分の封印していた昔日の悔しさと怒りをよみがえらせて。

中学入學まもない頃、他クラスと合同授業があった。私のうしろの生徒が喋っていたのを、教師は私が喋っているのと勘違いし「お前は何を喋ってるんや。立て！」と怒り、「正

直に謝れ」と執拗に迫り授業が中断した。「喋ってません」としどろもどろの答えに教師は許さなかった。罪を着せられ、しかもよく知らぬ他クラスの生徒の前で、立たされている自分が恥ずかしいやら悔しいやらで、涙が止まらなかった。潔白を正すすべさなく、不名誉な記憶として50年以上封印していた。

不快な記憶を再びよみがえらせた私の瓊末な体験と、袴田さんや、カーター氏の命を賭した闘いを、ここで同列にする傲岸さはない。ただ自身の体験が、他者の痛みを想像させる力にはなると思ったのだ。先ほど私は忌むらしいさを封印するといっただけで、封印から想像力は生まれない。もしかすると、恥かしさと悔しさと無念さへの封印を解除した時、他者への想像力が動くかもしれないと考え本稿に代えた。

1994年、世界ボクシング評議会(WBC)はカーターに、世界ミドル級名誉チャンピオンの称号とチャンピオンベルトを授与した。その20年後の2014年4月6日、WBCは袴田さんの裁判勝利に、フェザー級名誉チャンピオンとチャンピオンベルトを授与した。

これまで人を裁くという裏側のいまいしい暗部によって、どれだけの冤罪が生まれたのか。

hidarimaki



今月の花：カーネーション
花言葉「女性の愛」「感動」

色によって花言葉が変わります。赤は、「母の愛」です。5月の第2日曜日は、感謝するという意味でこの花を贈ります。

毎朝店の準備をする時に手伝ってくれていた「哲ちゃん」がこなくなつて2日後入院したと聞いて、病院にかけた。寂しそうな顔をして、めまがひどくて、救急車を呼んだみたいです。もともと心筋梗塞だったので心配した。「ごめんな」と言つて涙を流して喜んでくれた。一日も早く元気になつて帰つておいで、と声をかけるのが精一杯でした。早く元気になあれ！(なんばひとみ)

ピースのつばやま



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

「健康診断」
お母さんが少し離れたところから、私の名前を呼んだ。「はあ、いいワンワン」と答えると、お耳は大丈夫と丸印。
お目々も大丈夫と丸印。
ゆーちゃんが両手に
お菓子を持って、
どっちにする？って聞いた。
「どっちにしようかな？」と
鼻をクンクン動かすと、
お鼻も大丈夫と丸印。
お父さんが散歩にいくぞ！
と誘ってくれた。
「やったあワンワン」と
力いっぱい身体を動かすと、
健康ばっちり二重丸。
だけど最後にお注射打とうと
言われたとたん、
病気のふりをした私ワンワン。

赤井まゆみ



思ったら! にしなりカレンダー

いろいろ教室めぐり

けん玉名人にチャレンジ!

「けん玉きょうしつ」

日時: 5月25日(日) 13:30-15:00
場所: 西成区子ども・子育てプラザ(梅南1-2-6)
対象: 小学生以上
講師: くどう先生
問合せ: 西成区子ども・子育てプラザ
TEL: 06-6658-4528

ワンコイン講座

「野の花を描いて “わたしだけの葉書”を作ろう」

日時: 6月4・11・18日(水) 13:30-15:30
(1回だけの参加も可能です。)
場所: 西成区民センター(岸里1-1-50)
定員: 30名
費用: 1回500円、別途材料費200円(1回)
問合せ: 西成区民センター
TEL: 06-6651-1131 FAX: 06-6658-1158

アロマや香水で粘土細工の様に楽しくつくる

「手作りお香レッスン」

日時: 6月3日(火) 10:00-11:30
場所: あおぞらアトリエ(岸里東1-11-19)
定員: 4名
費用: 1,500円
問合せ・申込: きもの雫(担当: 森永)
TEL: 090-2707-7046
WEB: <http://kimono-shizuku.jp>

舞台を楽しもう!

「第73回西成寄席」

日時: 5月29日(木) 18:15(開演)
場所: 西成区民センター(岸里1-1-50)
定員: 80名
費用: 1,300円
主催: 西成区役所
問合せ: (一財)大阪市コミュニティ協会西成
TEL: 06-6652-8461

「西成区第九合唱団」团员募集

日時: 6月18日から12月までの水曜日(計16回)
時間: 19:00-20:30
費用: 9,000円(学生は半額)
内容: 16回のレッスンを終了後、大阪フィルハーモニー
会館メインホールで公演を行います。
主催: 西成区役所
企画運営: 西成区第九合唱実行委員会
(一財)大阪市コミュニティ協会西成
問合せ: (一財)大阪市コミュニティ協会西成。
TEL: 06-6652-8461

「第9回西成ミュージカル」出演者募集

対象: 小学校高学年以上で、練習に毎回参加できる方
稽古: 9月から3月の本番まで、
月・火・金曜日の週3回、18:30-21:00
場所: 西成区役所(岸里1-5-20)
および西成区民センター(岸里1-1-50)
費用: 5,000円
(衣装代の一部・メンバーTシャツ代など)
募集期間: 5月1日(木)-8月8日(金) 消印有効
問合せ: 西成区役所市民協働課西成ミュージカル担当
TEL: 06-6659-9734 FAX: 06-6659-2246



あとがき

環状線の先頭車両でスマホを窓の外にむけながら、イヤホンを耳に標準語で独り言をつぶやく女の子。どうやらテレビ電話で車窓の風景を友達に伝えていた様子だ。新今宮駅が近づくと「あれが通天閣。で、あの高いビルは…なんだったっけ。」旅の様子をテレビ電話で伝えることにも驚いたけど、ハルカスの認知度にも驚いた。

(田岡)

なび5月号(vol.87)

発行日: 2014年5月10日(創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

発行人: 代表取締役 富田一幸

印刷: 有限会社前山企広

住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長: 佐々木敬明

編集: 田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト: hidarimaki

デザイン・表紙写真撮影: 高橋静香

表紙の写真は「天下茶屋跡」で撮影しました。